

# 第27回全日本実業柔道個人選手権大会・報告書

第27回全日本実業柔道個人選手権大会は、8月30・31の両日、兵庫県尼崎市記念公園総合体育館に男子8種目（7体重別と2歳未満の部）女子7種目の合計623人（参加申込者）が参加し、国際ルールで行われた。

初日は男子78kg級の土屋好英3段（27、東芝本社）と女子48kg級の真壁友枝3段（22、住友海上）がともに2連覇を遂げた。女子52kg級の吉田清美2段（22、ミキハウス）は3年ぶり3度目の優勝を果たした。その他は初優勝で、男子60kg級漆畑健4段（23、東芝本社）、65kg級鳥居智男4段（24、上組）、激戦の71kg級は南條充寿3段（25、ダイコロ）が制した。

将来を期待させる2歳未満の部は永井亮平3段（20、新日鉄広畑）が2年連続2位のトンネルを抜けて明るい初優勝の光をあびた。

女子56kg級の上田尾（うえだお）理恵初段（20、住友海上）も涙の初Vとなった。



開会式で挨拶する宮田良雄 尼崎市長(左)、齋藤 裕会長(右)



開会式で力強く健闘を誓う下出選手(旭化成)

最終日は男子の95kg超級で上水（あげみず）研一朗3段（23、総合警備保障）、95kg級を同期の繁昌久哲3段（23、旭化成）で分け合った。86kg級は田辺勝3段（24、旭化成）がこの日ただ1つの一本勝ちを見事に決めた。女子は72kg超級の国吉真子3段（23、コマツ）と72kg級の下田仁美2段（22、コマツ）の同僚コンビがそろって2連勝の花を咲かせた。61kg級の中橋治美初段（24、ダイコロ）と入社早々の66kg級の上野雅恵2段（18、住友海上）は、うれしい初優勝。



大会での優勝を目指し、全国各地から出場した623人の選手が集う開会式

# 男子95kg超級 “上水、先輩を破る”

ノーシードの上水がどんどん出て来た。初戦で第24回大会22歳未満王者・江良（旭化成延岡）を払い腰に討ち取り、3人目にはシードの三谷（日本道路公団）に3-0の旗判定で館内のだよめきを誘った。次いで第2シードの小林（旭化成）にも大内刈りで圧勝した。騎虎の勢いを感じた。高校時代から現大関若乃花に相似した風貌で親しみを持てる選手だった。一方の下出は準決勝で窪田と双方警告のあと横四方固めに抑え、総合勝ちでの決勝進出。

上水―下出、何か語呂合わせのような対戦となり、慎重の両者に指導―注意のあと、上水は体落とし、内股で攻勢に出る。うまく先に引き手を取ると場外線まで追い込んでの左体落とし決まって、「技あり」。ここでベテランの下出、強襲の巻き返しに出ると思わず上水あおられて足を赤畳の外に出し「警告」を受けたがためにポイントは相殺、下出の注意だけが残る、これが明暗を分けた。



優勝した上水選手  
(総合警備保障)

**社会人になって体力増強**  
上水の話 社会人になって、やり直そうと体力をつけたのが良かった。三谷さんに勝って「いけるかな?」と。  
下出先輩は自分が高校生の時、すでにバリの現役で雲の上の存在だった。今でも怖い。技ありを取ったけど、場外近くで内股一発が怖くなり、自分から足を出してしまった。

## 【成績】

- 優勝 上水研一朗 (総合警備保障)
- 準優勝 下出善紀 (旭化成)
- 第3位 岡泉 淳 (新日鉄広畑)
- 第3位 窪田 茂 (旭化成)

### ▽準々決勝(5回戦)

- 岡泉 優勢勝ち 赤松
- 上水 大内刈り 小林
- 下出 払腰 谷口
- △窪田 警告 佐々木

### ▽準決勝

- 上水 大内刈り 岡泉
- 下出 総合勝ち 窪田

### ▽決勝

- △上水 注意 下出

# 男子95kg級 “一本背負い大繁昌”

シードは前年1位の宗（九電）2位の湊谷と3位一ノ宮。湊谷が決勝で繁昌の一本背負いに技ありを奪われたのは不覚としか言いようがない。ノーシードの繁昌は、95kg超級の上水と同じ23歳。鹿児島県鹿屋市の徳永氏（筑波大徳永の父君）に育てられた。宮崎県都城商では同じ'97パリ世界選手権補欠・岩川（鹿屋出身）の後輩。

決勝までに苦戦もあった。ライバル・小齋（日本道路公団）とノーポイントの展開、これは審判泣かせの判定になるかと思わせたが、残り3秒、効果に近いポイントを挙げた。これがなければ旗は小齋だったかもしれない。

以後は186cm長身・桜井（新日鉄広畑）に3-0の旗、背負い投げの秋山（宗に一本勝ち）を内股に下しての決勝進出である。  
決勝戦の湊谷との対戦は、両者指導のあと、繁昌が小外、足払いを連発し、機を見て左の一本背負い。これがうまく入って技あり。湊谷も大外刈り、背負い投げで逆転を狙ったが、繁昌応戦して時間。



優勝した繁昌選手  
(旭化成)

**最後まで気を抜かず**  
繁昌の話 「技あり」だったので、まだまだと、時間いっぱいまで勝負した。湊谷さんとは6月1日の実業団体の決勝戦（神戸市）で引き分けているので、これが2度目の対戦だった。力もあり、技の切れる人なので、組み負けたら思い切り持っていられると思いい、組み手を厳しくしたのが良かった。

## 【成績】

- 優勝 繁昌久哲 (旭化成)
- 準優勝 湊谷知幹 (新日鉄広畑)
- 第3位 秋山勝彦 (日本中央競馬会)
- 第3位 高崎新一 (21世紀エンタープライズ)

### ▽準々決勝(5回戦)

- 秋山 優勢勝ち 深川
- 繁昌 優勢勝ち 桜井
- 湊谷 小外掛け 菊池
- 高崎 合わせ技 小倉

### ▽準決勝

- 繁昌 内股 秋山
- 湊谷 大外刈り 高崎

### ▽決勝

- 繁昌 一本背負い 湊谷

## 男子86kg級 “田辺の背負い落とし光る”

前年1位金谷、同3位三宮と中道（新日鉄広畑）を両翼にシード。だが、ここでもシード以外の伏兵がどんどん上位に勝ち上がってきた。1995福島国体優勝の原動力として福島県体育協会に勤務していたテクニシャン田辺が、いつの間にか旭化成所属。その田辺の技の切れは、ますます円熟味を見せている。7試合中、旗判定までフルタイム戦ったのは山崎（ツクバ計画）戦だけだ。

決勝戦も組んですぐの内股が決まらず、組み手争いののち、場外付近で大原が回り込もうとするはなをとらえて見事な背負い落とし一閃。この最終日、男女計7決勝のうち、一本で柔道の醍醐味を示したのは田辺だけである。



優勝した田辺選手  
(旭化成)

### 決勝は思うように動けた

田辺の話 旭化成には4月に入社した。大原君とは彼が95kg級だったので、試合はおろか、けいこもしたことはない。全くの初対戦だが、関節技とかやるので気をつけようと思った。大原君は、さすがに減量とかきついらしく、少しバテていた。

去年はオリンピック補欠、今年の世界選手権も補欠。もうトシで、あとがない。来年もルールが変わって90kg級が出来たら、そのクラスで頑張る。

### 【成績】

- 優勝 田辺 勝(旭化成)
- 準優勝 大原尚喜(東洋水産)
- 第3位 阿部 淳(そごう)
- 第3位 中嶋康博(日本道路公団)

### ▽準々決勝(5回戦)

- 田辺 袖釣込腰 金谷
- 阿部 内股 木村
- 大原 優勢勝ち 三宮
- 中嶋 足払い 平江

### ▽準決勝

- 田辺 合わせ技 阿部
- 大原 優勢勝ち 中嶋

### ▽決勝

- 田辺 背負落とし 大原

## 男子78kg級 “土屋、背負い投げでV2”

前年のベスト4（土屋、長谷川、平田、関口）がそろってシードされたが、土屋は2連勝を果たした。その前に71kgでの優勝もあるから3年連続のチャンピオンだ。とにかく動きがいい。背負い投げで一本決めるか、でなくとも必ず技あり、有効となって抑え込みへの移行も素早い。準決勝の平田戦も一本背負いからの崩れ上四方固めだった。減量の苦しみとか、疲労がないので思い切りスピードが生かせる。土屋の持ち味である。

決勝は土屋が背負い投げ、尾辻が右大刈り。ともに不十分。と、その一瞬の機を捉えて土屋が右背負い投げに入る。尾辻、こらえ切れず両足が逆さまとなって宙を舞った。この一本勝ちも見事であった。



優勝した土屋選手  
(東芝本社)

### 76kgだから減量なし

土屋の話 尾辻君とは初めての対戦だったが、絶対に勝てる自信があった。背負い投げ？自分ではあれしかなないので…。投げたあと、相手がここにいたから（と胸の下を指して）“一本だな”とわかった。

自分の体重は76kgしかないし、目いっぱい食べてけいこできるから、いつも調子は良い。

### 【成績】

- 優勝 土屋好英(東芝本社)
- 準優勝 尾辻太輔(日本道路公団)
- 第3位 平田雄也(旭化成)
- 第3位 小椎尾光信(東レ)

### ▽準々決勝(5回戦)

- 土屋 背負い投げ 吉岡
- 平田 背負い投げ 石躍
- 尾辻 優勢勝ち 林
- △小椎尾 注意 山本

### ▽準決勝

- 土屋 崩上四方固 平田
- 尾辻 小外刈り 小椎尾

### ▽決勝

- 土屋 背負い投げ 尾辻

# 男子71kg級 「南條「指導」奪った」

昨年2位山部と3位吉田（東京消防庁）がシードされた。山部のパートでは世界選手権補欠の岩川（上組）が合宿参加で不戦負けとなり、山部は比較的容易と言おうか、実力通りの決勝進出である。その反対パートは、なかなか難戦で、南條が小林（ツクバ計画）を旗3-0で退け、新田との準決勝も小内刈りの効果で切り抜ける。

決勝は、互いに左組み。小内刈り、巴投げなどから立って寝ての激しい攻防戦。その動きでは山部が変化技を見せて、しばしば意表をつくが、南條よく心得て沈着にさばき、その奇襲を撃退した。残り1分、橋本圭史主審が山部に片えり指導を与え、これが決め手となって女神は南條にほほえみ給うた。かき回された分だけ、これがなければ南條に劣勢の印象は残ったに違いない。



優勝した南條選手  
(ダイコロ)

## 山部さんはレスリング?

南條の話 山部さんとは65kg級時代から5度目の対戦で、71kgでは初めて。対戦成績は、これで4勝1敗となった。山部さんは自衛隊体育学校でレスリングの技を採り入れてきたではないか?前は、やってなかった。目の前で突然、フルターンして突っ込んできたり、戦法が変わっていた。  
9月末のマルセイユ国際に出るので、これは自信につながる。

### 【成績】

- 優勝 南條充寿(ダイコロ)
- 準優勝 山部伸敏(自衛隊体育学校)
- 第3位 岩本啓一(ダイコロ)
- 第3位 新田雅史(京業ガス)

#### ▽準々決勝(5回戦)

- 山部 優勢勝ち 大崎
- 岩本 優勢勝ち 鈴木
- 南條 縦四方固 吉永
- 新田 優勢勝ち 斉藤

#### ▽準決勝

- 山部 優勢勝ち 岩本
- 南條 大内刈り 新田

#### ▽決勝

- 南條 指導 山部

# 男子65kg級 「左手負傷にめげず鳥居」

前年1位の南保(明送)、3位岡本と牧瀬がシード、南保は出場しなかった。南保の欠場は寂しいが、試合番号36から41まで6試合続けて背負い投げで勝因が決まったのは、軽量級らしいハツラツたる試合展開で、面目躍如たるものがあった。

内訳は、一本勝ち2(ダイコロ・村上、東日本キョスク・岡本)、有効1(近藤産興・内村)、効果3(西興産業・田中、上組・鳥居、自衛隊体育学校・牧瀬)である。

決勝戦は、田中の飛び込み十字から寝技の攻防、鳥居の巴投げ有効で激しい展開の末に鳥居が放った左背負い投げ、見事に決まる。



優勝した鳥居選手  
(上組)

## 久しぶり背負い投げ

鳥居の話 前年の嘉納杯で左手首を痛めた。いつもかっく方なので今もリハビリ中だが、優勝したことより久しぶりに背負い投げで勝ったことの方がうれしい。

71kg級で大崎さん、山部さん、南條さん、元65kg級の人が皆がんばっていて、取り残されたような気がしていただけに、よけいうれしい。

### 【成績】

- 優勝 鳥居智男(上組)
- 準優勝 田中泰秀(西興産業)
- 第3位 高橋洋樹(吉田整骨院)
- 第3位 牧瀬洋人(自衛隊体育学校)

#### ▽準々決勝(5回戦)

- 高橋 大内刈り 飛田
- 田中 優勢勝ち 村上
- 鳥居 内股 岡本
- 牧瀬 優勢勝ち 内村

#### ▽準決勝

- 田中 優勢勝ち 高橋
- 鳥居 優勢勝ち 牧瀬

#### ▽決勝

- 鳥居 背負い投げ 田中

# 男子60kg級 漆畑、若さの勝利

前年のすい星1位森前から2位越路、3位斉藤がシードされた。ノーシードの漆畑が出ていた。縦四方固め、十字固めで一本勝ち、内股すかしで技あり、裏投げ効果と勢いもよい。それは良いはずで、今春の大卒のバリバリ。決勝の斉藤は武大で2年上。その斉藤も背負い投げに始まり、内股で3連勝しての決勝進出となっている。右と左のけんか四つ。斉藤が左の釣り込み腰、内股。漆畑は右の小外、体落として応酬する。漆畑は小気味よい動き。さらに連続して小外、背負いが効いて、受け太刀の斉藤に「指導」が与えられる。そのあと、互いに内股などで攻め合うもポイントに至らず時間となる。



優勝した漆畑選手 (東芝本社)

**ムキになるなと先輩が**  
漆畑の話 先輩とは初めての対戦だが、学生時代互いにけいこしているの、掛ける技は知っている。とくに左内股は食わないようにマークした。4kgの減量は、うまくいったが、社会人になって練習量は不十分。スタミナだけが心配だった。もっとも斉藤さんの方も試合が終わってから「おい、そんなにムキになって攻めるな。おれ、スタミナない」と言っていました。

## 【成績】

- 優勝 漆畑 健(東芝本社)
  - 準優勝 斉藤龍臣(東京消防庁)
  - 第3位 荒川浩司(タツジ)
  - 第3位 松本秀彦(セコム)
- ▽準々決勝(5回戦)
- 荒川 優勢勝ち 岩成
  - 斉藤 内股 谷口
  - 松本 払腰 藤田
  - 漆畑 内股すかし 森下
- ▽準決勝
- 斉藤 内股 荒川
  - 漆畑 裏投げ 松本
- ▽決勝
- 漆畑 指導 斉藤

# 男子22歳未満 3連続決勝の永井初V

前年1位の谷口(旭化成延岡)は95kg超級に回り、2位永井、3位前田(ダイコロ)、小西(武田薬品光)がシードされた。第1シードの永井が期待にこたえて決勝進出、井谷を警告と技ありの総合勝ちに仕止めた。この2人、似た体型の重量級、なかなか決め手を得られず、指導―注意を受ける。これが残り2分14秒のあたり。永井の激しい当たりを受けて井谷の右大内刈りは不発となる。井谷は自護体になりすぎて、ついに警告を受けるまでに。これで勢いづいた永井が左大内刈り有効で追い討ちをかけ、なおも大内刈りで技ありを奪って総合勝ち。



優勝した永井選手 (新日鉄広畑)

**抑え込み5秒で脱出**  
永井の話 2年連続2位だったので、今回は絶対優勝するぞ、と考えていた。井谷さんと初対戦だけど名前を知っていた。反対側からは井谷さんと須磨谷君(上組)の勝った方が出て来るとマークした。それより園田さんとの準々決勝は内股を小外で返したのが有効になったけど、寝技で1度抑えられ、5秒で逃げたのが大変だった。

## 【成績】

- 優勝 永井亮平(新日鉄広畑)
  - 準優勝 井谷英明(東レ)
  - 第3位 郷 辰巳(新日鉄広畑)
  - 第3位 淵田昌樹(九州電力)
- ▽準々決勝(5回戦)
- 永井 小外刈り 園田
  - 郷 横四方固 園田
  - 淵田 腕挫十字固 野中
  - 井谷 崩上四方固 楠見
- ▽準決勝
- 永井 横四方固 郷
  - 井谷 優勢勝ち 淵田
- ▽決勝
- 永井 総合勝ち 井谷

永井は入社3年目の荣誉だが、2年連続2位の結果は雨のち快晴。

# 女子72kg超級 “国吉がV2飾る”

国吉―柳花の対決も予想されたが、準決勝の鈴木―柳花は有効取られた柳花が場外に出ている相手を上四方固めに抑え、あわや逆転！と思わせた。しかし、自分の足が試合場から離れたため（16秒で効果）及ばず。

決勝は国吉が左、鈴木右のけんか四つ。国吉は奥えり深く握って内股、払い腰。判定の旗は2―1で国吉。



優勝した国吉選手  
(コマツ)

## 慎重になりました

国吉の話 谷落としを仕かけてみたが、内股に切り返されそうな気がして中止。それで払い腰で攻めた。相手は体も力もあるし、これで4戦全勝だけど練習では結構やられるので取るか取られるかと慎重になった。

柳花さんにも5月の団体戦で負けてるし、どちらが上がつてきても、いやだなという感じ。

## 【成績】

- 優勝 国吉真子3段(コマツ)
- 準優勝 鈴木香苗2段(ミキハウス)
- 第3位 柴田幸子初段(三菱自動車)
- 第3位 柳花美鈴2段(ダイコロ)

## ▽1回戦

- 国吉 大外刈り 中山 (セコウ)
- 柴田 押し倒し 福沢 (三菱自動車)
- 柳花 不戦勝 大久保 (ダイコロ)
- 鈴木 払腰 工藤 (ミキハウス)

## ▽準決勝

- 国吉 上四方固 柴田
- 鈴木 体落し 柳花

## ▽決勝

- 国吉 優勢勝ち 鈴木

# 女子72kg級 “下田も花のV2”

幕張の世界選手権大会66kg級代表で元あさひ銀行の石橋千里（総合警備保障）が1年半ぶりカムバックしたが、新鋭・小取に判定で敗れた。コマツ同士の決勝戦は、互いに手の内を知り尽くしており、組み手争いが多い。小取は背負いから大内、小内とよく攻めるが、173cmの下田（小取は170）そのたびにつぶして寝技に持ち込む。判定は3―0で下田。やはり一日の長が物を言った。



優勝した下田選手  
(コマツ)

## 絶対負けたくなかった

下田の話 春の東京都女子体重別（講道館）に続いて2戦2勝。木村さんとの準決勝次第だけど小取さんが上がって来るなと感じた。絶対負けたくなかった。コーチの鈴木香さんに「顔が緊張してるよ」と笑われたほど。私のペースでやるか、小取ペースになるか。組みぎわの大内刈りに引つかからないよう気をつけた。それと寝技も強いので……。

## 【成績】

- 優勝 下田仁美2段(コマツ)
- 準優勝 小取美輪2段(コマツ)
- 第3位 花増まゆみ初段(ミキハウス)
- 第3位 木村昌代2段(ミキハウス)

## ▽1回戦

- 佐々 不戦勝 野沢 (肥後銀行)
- 花増 優勢勝ち 須磨 (ミキハウス)
- 上野 優勢勝ち 谷口 (肥後銀行)
- 石橋 横四方固 向井 (総合警備保障)

## ▽準々決勝

- 下田 上四方固 佐々 (コマツ)
- 花増 優勢勝ち 吉野 (花増)
- 木村 大外刈り 上野 (ミキハウス)
- 小取 優勢勝ち 石橋 (コマツ)

## ▽準決勝

- 下田 横四方固 花増
- 小取 指導 木村

## ▽決勝

- 下田 優勢勝ち 小取

# 女子66kg級 “自分でもびっくり上野”

決勝戦では中市は右の体落とし、大内刈りで攻め、上野は左からの大内、足払いで応酬する。一度、上野がつぶして寝技に入りかけるが、足を抜けずに「立て」。旗は2-1で新鋭上野に。柳澤監督「ふつう新人が優勝するなんてない。よくやった。南と決勝も想定していた。今日は重量級担当を福場、軽量級を常松、上野の担当は恵本（オリンピックツ金）」と笑み満面に浮かべていた。今春、社会人になった中市だが貝山、南をそれぞれ大内刈りで崩す威力を持ちながら初の実業大会に不慣れで、試合前から緊張気味だった。

前記の南も脅威的新人で角地から効果と有効を奪っている。角地は「疲れる前に負けましたと苦笑していた。」



優勝した上野選手  
(住友海上)

## かつぎ技は掛からなかった

上野の話 勝ったなんて信じられない。一昨年の秋田の女子体重別は旗判定で中市さんに負けてるし…。自分の得意のかつぎ技をかけたよと思うても中市さんにかからなかった。大内刈りと体落としは気をつけた。柳澤先生からは「とにかく新人なのだから、自分の技を試すんだ」と言われ、恵本先輩には「1試合、1試合一生懸命に」と教わった。

### 【成績】

- 優勝 上野雅恵2段(住友海上)
- 準優勝 中市陽子2段(近畿通関)
- 第3位 南 千草初段(ミキハウス)
- 第3位 藤本哲子2段(ダイコロ)

### ▽一回戦

- 角地 内股 (ダイコロ)
- (住友海上)
- 南 体落とし (宮本)
- (ミキハウス)
- 貝山 優勢勝ち (佐藤)
- (住友海上)
- 中市 横四方固 (山口)
- (近畿通関)
- 高橋 不戦勝 (笠原)
- (セコム)
- 上野 優勢勝ち (酒向)
- (住友海上)
- 横井 横四方固 (児玉)
- (警視庁)

### ▽準々決勝

- 南 小外刈り (角地)
- 中市 優勢勝ち (貝山)
- 上野 上四方固 (高橋)
- 藤本 優勢勝ち (横井)
- (ダイコロ)

### ▽準決勝

- 中市 優勢勝ち (南)
- 上野 優勢勝ち (藤本)

### ▽決勝

- 上野 優勢勝ち (中市)

# 女子61kg級 “中橋3-0で初”

決勝戦では大石が左、中橋が右で互いに激しい組み手争い。ともに気合十分で技を掛け合うも、常に先手で技を出して攻めた中橋に旗は3-0とそろった。中橋は息が上がるほどの全力疾走で、残り45秒の大内刈り、時間切れ寸前の上からの攻撃などが印象に結びついたか？

26歳と24歳、ベテランの仲間入りした2人だが、若いだけに中橋は全力運転が可能だったか。



優勝した中橋選手  
(ダイコロ)

## 今回は燃えました

中橋の話 大石さんには神戸の団体大会で大内を返されて効果で負け。対戦は2度目です。たまに優勝しないとゴミのような私、忘れられてしまう。実は7月のマカオ(太平洋選手権大会)でもアメリカ人に1回戦、旗で負け。不完全燃焼だった。何も出さないうで終わるより、燃やそうと今回は思った。今日のラッキーカーラーは白なので、髪の毛も白。ついでに帯も白。引退した兄(筑波OB)が来て「楽しんでやれ。」と。心強かった。

### 【成績】

- 優勝 中橋治美初段(ダイコロ)
- 準優勝 大石愛子2段(そごう)
- 第3位 池田初美2段(大阪府警)
- 第3位 山野美喜初段(そごう)

### ▽二回戦

- 今井 不戦勝 (小笠原)
- (京阪電鉄)
- 池田 背負落し (山内)
- (大阪府警)
- 大石 内股 (本田)
- (そごう)
- 平山 不戦勝 (ラフェザー安全剃刀)
- (ダイコロ)
- 鹿熊 不戦勝 (野本)
- (YKK)
- 中橋 合わせ技 (菊池)
- (ダイコロ)
- 小澤 不戦勝 (北村)
- (セコム)
- 山野 不戦勝 (白石)
- (そごう)

### ▽準々決勝

- 池田 大外刈り (今井)
- 大石 上四方固 (平山)
- 中橋 横四方固 (鹿熊)
- 山野 出足払い (小澤)

### ▽準決勝

- 大石 上四方固 (池田)
- 中橋 横四方固 (山野)

### ▽決勝

- 中橋 優勢勝ち (大石)

# 女子56kg級 “住友決勝は上田尾”

決勝戦では、互いに両手で握って、けん制し合う。上田尾の内股、払い巻き込み、茂木の左背負い、右一本背負いの反撃も不十分。再び両手で持ち合つてのけん制から上田尾は内股、払い巻き。これに対し、茂木は大内刈り、双手刈りまで繰り出すが、ポイントと変わらない。先手で攻めた上田尾に旗は3-0となびく。新人茂木（八千代松陰高）も大したものだ。前年52kg級で2位だった秋山を2-1で下しての決勝進出は一応特筆。

## 【成績】

- 優勝 上田尾理恵初段(住友海上)  
準優勝 茂木仙子2段(住友海上)  
第3位 秋山奈緒子2段(総合警備保障)  
第3位 城見直美3段(警視庁)

## ▽1回戦

- 茂木 大外刈り (大阪府警)  
○秋山 横四方固 (三菱自動車)  
○石崎 優勢勝ち (三菱自動車)  
○石井 十字固 (ミキハウス)  
有櫛 (コマツ)

## ▽準々決勝

- 茂木 内股 (井上 (コマツ))  
○秋山 背負投げ (雨森 (ミキハウス))  
○城島 横四方固 (石崎)  
○上田尾 上四方固 (石井 (住友海上))

## ▽準決勝

- 茂木 優勢勝ち (秋山)  
○上田尾 優勢勝ち (城島)

## ▽決勝

- 上田尾 優勢勝ち (茂木)



優勝した上田尾選手 (住友海上)

おばあちゃん、喜んで  
上田尾の話 去年は全然だったの(本大会では3位)今年はやるぞ。決勝は互いにやり方が分かっていた。公式対戦は初めて。ふだん54kgくらい。もう少し太りたい。  
広島(大柿島)おばあちゃんに知らせたい(泣く)。

# 女子52kg級 “吉田3年ぶり3度目”

ミキハウス同士の決勝戦は、右組みでけん制し合つて両者指導のあと、大森の大外を吉田返して効果。さらに吉田が背負投げ技ありで大きく水をあける。その後、大森は大外刈り、吉田は背負い、巴投げ、小外刈りと掛け合うが不十分。ただし、吉田の朽木倒しを場外で掛けたとみて審判無言だったが、これは場内からのコンティニューではなかったか？アトランタオリンピック銅メダル・菅原(ダイコロ)は組み合わせに入っていたが、ケガを理由に欠場は残念。

## 【成績】

- 優勝 吉田清美2段(ミキハウス)  
準優勝 大森千賀子2段(ミキハウス)  
第3位 笠崎恭子初段(そごう)  
第3位 本田美和子3段(肥後銀行)

## ▽2回戦

- 吉田 合わせ技 (西江 (日本生命))  
○杉江 優勢勝ち (家人 (コマツ))  
○瀬尾 崩上四方固 (松口 (西興産業))  
○笠崎 不戦勝 (菅原 (ダイコロ))

## ▽準々決勝

- 大森 優勢勝ち (吉岡 (住友海上))  
○木山 優勢勝ち (岩田 (関西シークレット))  
○堀切 不戦勝 (柴田 (ミキハウス))  
○本田 優勢勝ち (内田 (松永製作所))

## ▽準決勝

- 吉田 崩上四方固 (杉江)  
○笠崎 背負投げ (瀬尾)  
○大森 大外刈り (木山)  
○本田 縦四方固 (堀切)

## ▽準決勝

- 吉田 優勢勝ち (笠崎)  
○大森 合わせ技 (本田)

## ▽決勝

- 吉田 背負投げ (大森)



優勝した吉田選手 (ミキハウス)

いつものように  
吉田の話 準決勝(2-1の旗)のあと、村上先生から「なめたことするな」と、しかられた。  
決勝の前は2人呼ばれて、「いつものようにやれ」とだけ。自分もそう思っていた。2年続けて3位だったからうれしい。

# 女子48kg級 // 空気投げ? 真壁もV2 //

決勝戦は、前年と同じライバル対決。開始後、互いに足払いでけん制。機を見て衛藤が巴投げを掛けたが、不十分。真壁は前年、この巴投げでポイントをとられており、今回は対策済みである。この直後、真壁は相手の動きを利用して左払い腰。これがまことに鮮やかに決まって一本。今年も怪我の回復のため大事をとって出場を見合わせた衛藤の由佳(ミキハウス、24・25回2連勝)は、「空気投げみたいだった」と姉に報告していた。

## 【成績】

- 優勝 真壁友枝3段(住友海上)
- 準優勝 衛藤裕美子3段(コマツ)
- 第3位 宮之原まゆみ2段(ハッケンモーツアルト)
- 第3位 三浦多恵子2段(コマツ)

## ▽1回戦

- 鈴木 横四方固 (水越(辰野))
- 横井 内股 (堀(ハッケンモーツアルト))
- 鳴川 横四方固 (北山(YKK))
- 三浦 袈裟固 (岡野(ハッケンモーツアルト))

## ▽準々決勝

- 真壁 優勢勝ち (鈴木(住友海上))
- 宮之原 小外刈り (横井(ミキハウス))
- 衛藤 袈裟固 (鳴川(コマツ))
- 三浦 不戦勝 (衛藤(ミキハウス))

## ▽準決勝

- 真壁 内股すかし (宮之原)
- 衛藤 優勢勝ち (三浦)

## ▽決勝

- 真壁 払腰 (衛藤)



優勝した真壁選手 (住友海上)

## メンタル面で切り替え、勝因

真壁の話 衛藤おねえさんとは思って浮かぶだけでも4回対戦している。今回は不調で僅差でもいいから勝ちたいと願っていた。恵先輩からは「調子悪いとき勝てば、それが自信になる」と励まされた。

それで、とにかく気合いを入れ、気持ちを切り替えた。巴投げは、あのリズムに合わせなければ大丈夫と自信つけて臨んだ。



男子78kg級決勝 土屋、尾辻に背負投げ一本



男子22歳未満決勝 永井、大内刈りで井谷を攻める



女子52kg級決勝 吉田、朽木倒して大森を攻める

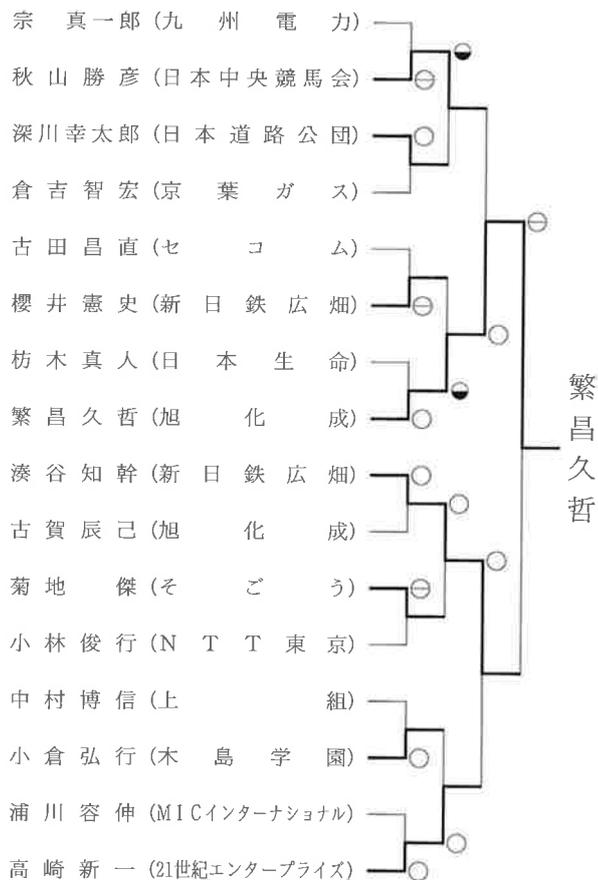


女子72kg級決勝 下田、小取の同社対戦

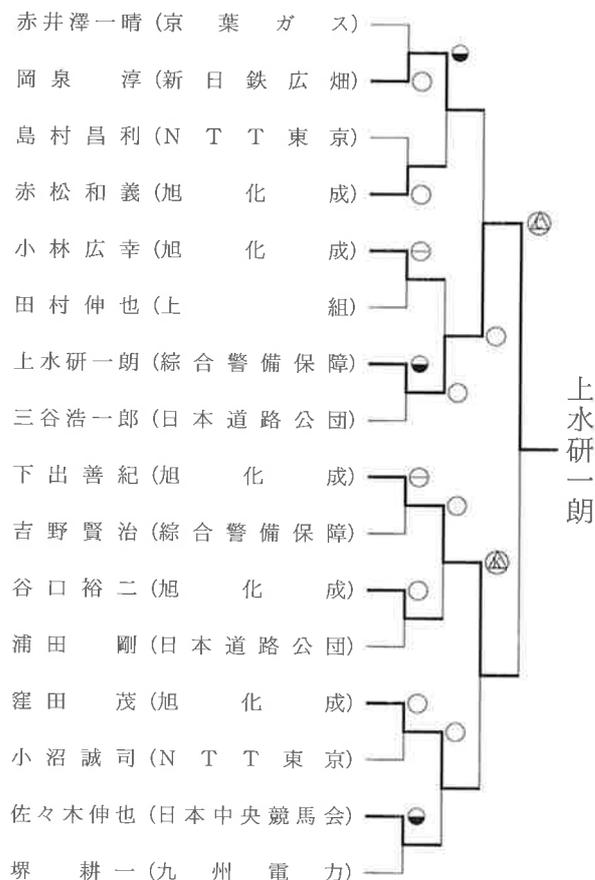
# 熱戦風景

# 績表

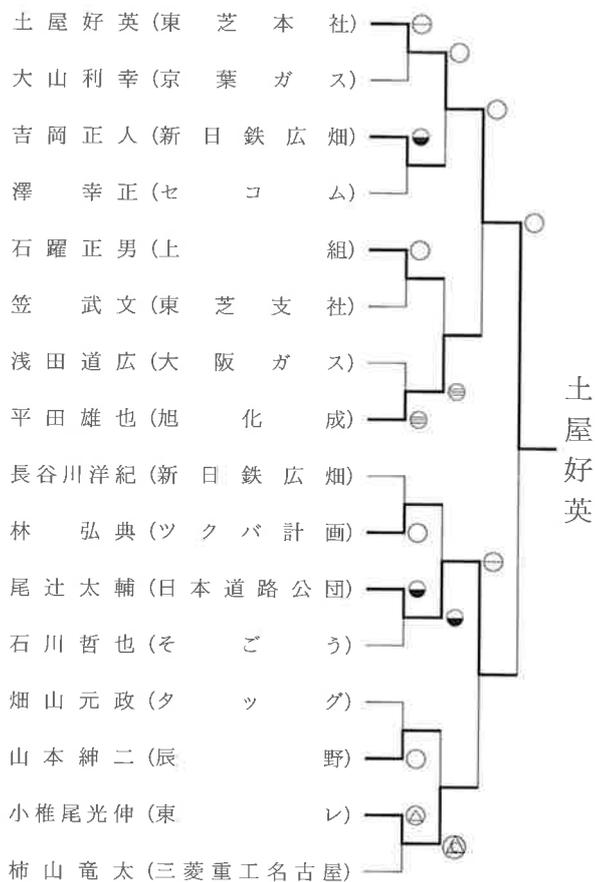
## 【男子95kg級】



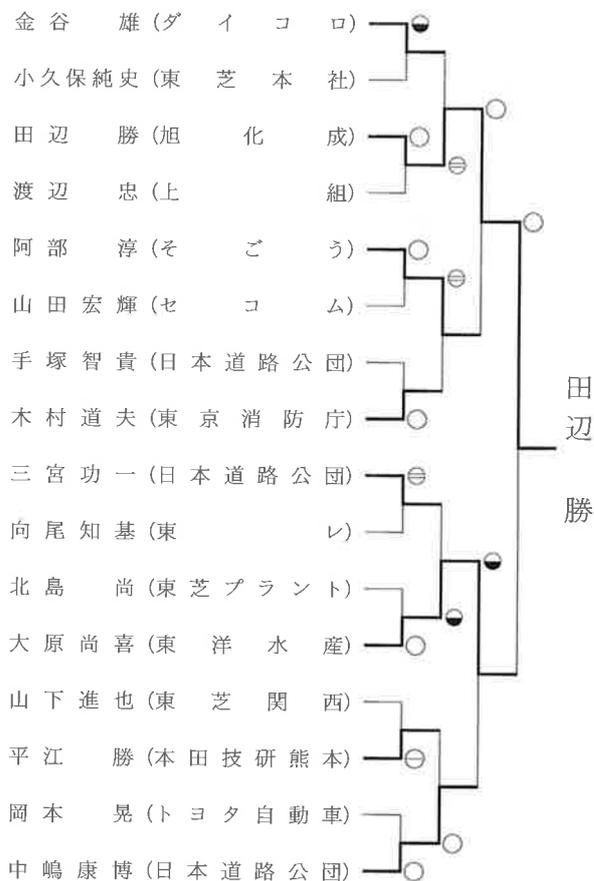
## 【男子95kg超級】



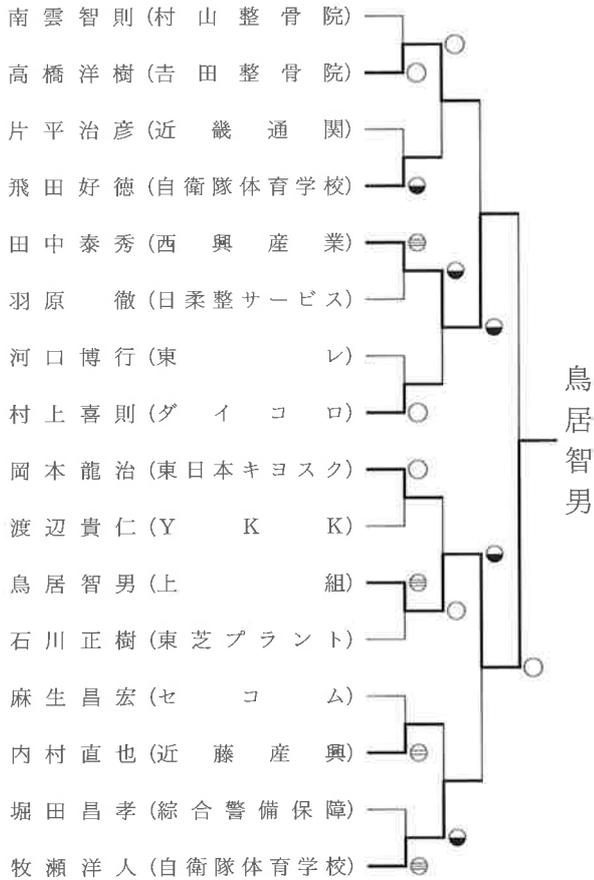
## 【男子78kg級】



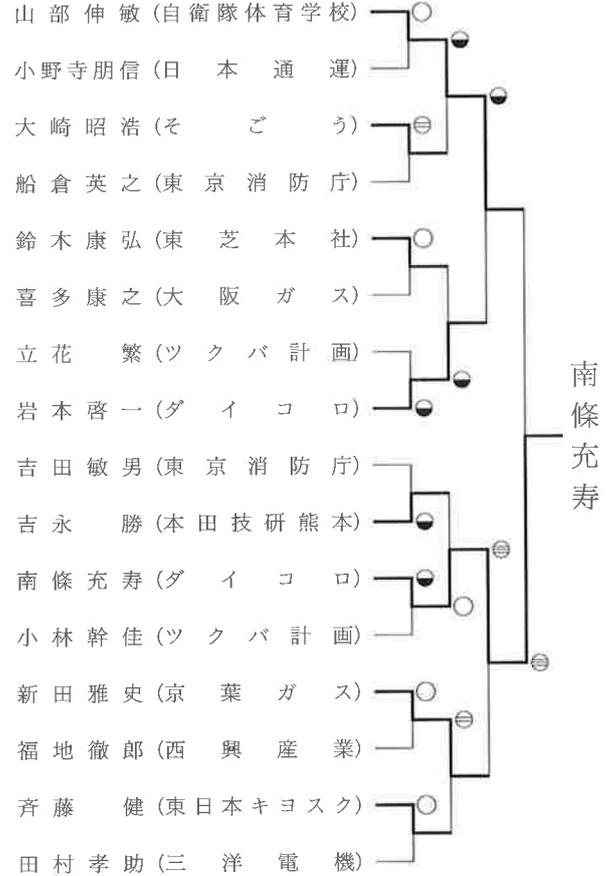
## 【男子86kg級】



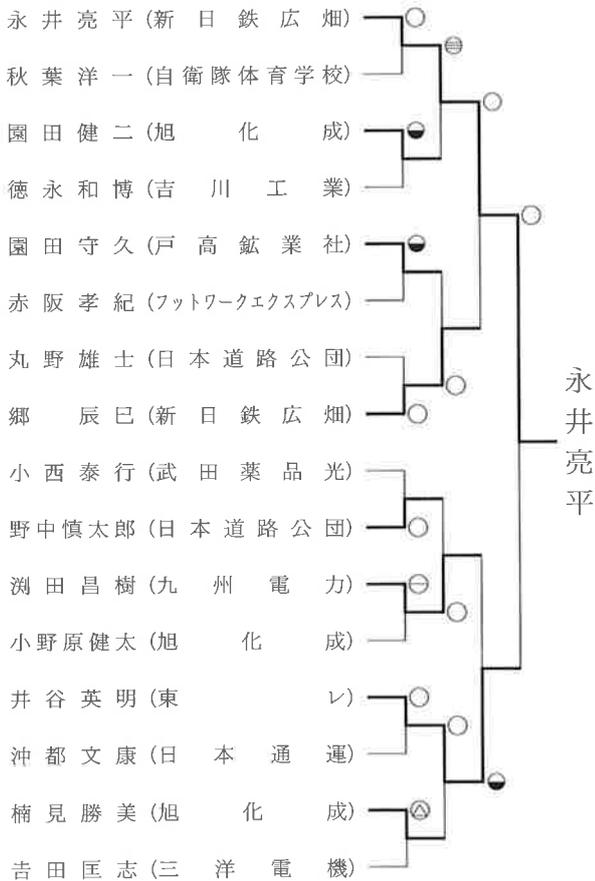
【男子65kg級】



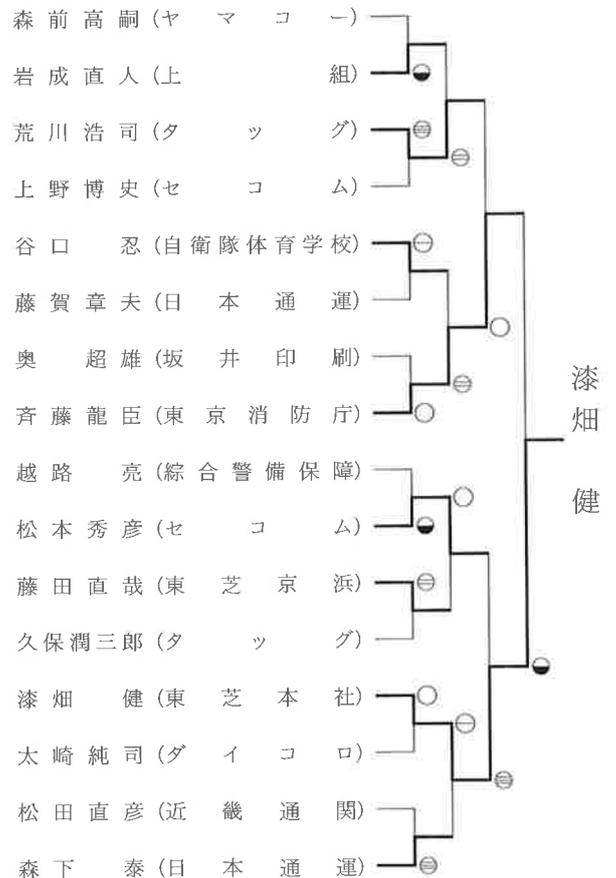
【男子71kg級】



【男子22歳未満】



【男子60kg級】



# ガンバレ柔道ニッポン!

## 1997年世界柔道選手権大会代表選手(当連盟在籍者)

95kg超級



築原 信一

1973.01.23生  
旭化成工業

95kg級



中村 佳央

1970.10.22生  
旭化成工業

78kg級



瀧本 誠

1974.12.08生  
日本中央競馬会

71kg級



中村 兼三

1973.10.18生  
旭化成工業

65kg級



中村 行成

1972.08.28生  
旭化成工業

66kg級



木本 奈美

1974.05.31生  
住友海上火災保険

56kg級



立野 千代里

1970.06.25生  
ミキハウス

52kg級



永井 和恵

1972.05.19生  
ダイコロ

### 【大会日程】

日時	男子		女子	
	階級	出場選手	階級	出場選手
10/9 (木)	95kg超級	築原 信一 (旭化成工業)	72kg超級	二宮 美穂 (日本体育大学4年)
	95kg級	中村 佳央 (旭化成工業)	72kg級	阿武 教子 (明治大学3年)
10/10 (金)	86kg級	藤田 博臣 (東海大学4年)	66kg級	木本 奈美 (住友海上火災保険)
	78kg級	瀧本 誠 (日本中央競馬会)	61kg級	北爪 弘子 (淑徳中学校教)
10/11 (土)	71kg級	中村 兼三 (旭化成工業)	56kg級	立野 千代里 (ミキハウス)
	65kg級	中村 行成 (旭化成工業)	52kg級	永井 和恵 (ダイコロ)
10/12 (日)	60kg級	野村 忠宏 (奈良教育大学大学院)	48kg級	田村 亮子 (帝京大学4年)
	無差別	真喜志慶治 (警視庁)	無差別	二宮 美穂 (日本体育大学4年)

### 【あとがき】

本大会は、一九七一年八月、第一回大会が開催され、今回で二七回を数える。大会の歴史を省みると、創生期、発展期、隆盛期に大別することができる。

まず創生期(第一回〜第一五回)は、全日本実業団東西対抗大会に代わり、年齢別選手権大会として約二〇〇名の選手が参加し、大阪市立修道館で開催された。

次の発展期(第一六回〜第二三回)は、女子柔道の発展を支援するために新たに女子の部を取り込み、柔道の国際化に対処するため体重別選手権大会に移行し、ダイコロ武友館で開催してきた。この時期の大会参加者は、二〇〇名から六〇〇名に飛躍的に増加し、大会規模が拡大した。

そして隆盛期(第二四回〜第二七回)は、国際柔道試合審判規定を採用し、選手の国際的な競技力の向上をはかるなど選手の育成に取り組んできた。この時期は参加選手数が六〇〇名前後に定着、大会々場は現在の尼崎市記念公園総合体育館で開催してきた。さらに大会には心・技・体を備えた優秀な選手が多数出場、息づまる熱戦を展開し、観客を魅了する充実した試合が数多く見られるようになった。

今回の世界選手権大会には、本大会で活躍した築原信一(第二二六回大会優勝)、中村佳央、木本奈美(第二四・二六回大会優勝)、永井和恵(第二五回大会優勝)選手らが代表として出場する。日本柔道の真髄を発揮し、好成績を収めるよう祈っている。

第一回大会以降、永年にわたり大会発展に取り組んでこられた西日本実業柔道連盟はじめ関係者各位に厚くお礼申し上げる次第です。

事務局長 村井正芳 記

発行日 1997年9月20日  
 発行 全日本実業柔道連盟  
 発行人 事務局長 村井正芳  
 取材協力 ジャーナリスト 宮澤正幸  
 印刷 ダイコロ株式会社